

宵待蟹岬毒草園

よいまちがにざきどくそうえん

戯曲変

深川夏眠

登場人物

- 詠（えい） .. 施設《アサイラム》の住人。
- 荘（そう） .. 新しい管理人。大柄。
- 漣（みお） .. 荘の助手。
- 凧（なぎ） .. 華奢な体格。声がかすれている。
- 陸（りく）
- 海（かい） .. 双子の兄弟。巨漢。
- 卓（たく）
- 矩（のり） .. 日和見グループの一員。
- 巖（げん） .. 反・凧派のリーダー格。
- 哉（さい）
- 瀧（ろう） .. 巖の側近。



## 第一場

波が岩肌にぶつかって砕ける音。

海鳥の声。

無地のカットソーにブルージーンズ姿の詠、自室で机の傍に立ち、

文面を吟味するように書いた手紙を音読。

詠 拝啓、親愛なる唯《ゆい》様。本当は、こんな風に呼びかけるのも許されないうし、握り潰す

だけで封さえ切ってもらえないかもしれないけれど、敢えて手紙を送ります。記録して発信することが僕自身のためにもなるのだから、書かせて……なんて言ったら、あなたは鼻で笑うでしょうか。怒りに震えて便箋を引きちぎるかな。それだけのご勘弁を。どうか破り捨てずに残しておいてください。

カーテンが揺れる。

詠、窓に近寄る。

外を見て、

詠  
レンブラント光線が美しい。

重いエンジン音。

空と海を眺めていた詠、姿勢を変える。

詠  
バスだ。嫌な予感がする……。

詠、廊下に出て、腰高窓から下を覗く。

階段を駆け下り、正門へ。

トロリーケースを引いた男女二人連れ、荘と漣。

荘は伸び過ぎた髪をバンダナで押さえつけている。

荘  
今日付で着任した管理人だ。案内しろ。

巨体の双子・陸海兄弟が出てきて、荘と漣の荷物を運び入れる。

体格は違えど、服装は詠と似たり寄ったり。

詠が目を上げると、陸海兄弟を待ち受ける凧の華奢なシルエットが映る。

詠 ……どうぞ。

詠、不承不承、とはいえ、それを悟られぬよう気づかいながら、  
荘と漣を導き入れる。

漣 (上向けた視線を巡らせ) 何だか、教会のような造りですね。

詠 無宗教の結婚式場《チャペル》だったらいいです。元々、施設《アサイラム》は半島の低地にあつたそうですが、台風で甚大な被害を受けたとき、無人になっていたここへ逃げ込んだまま、勝手に住み着いたのだと聞きました。

荘 (鼻で笑う) ウェディング・リゾートだったのか。

漣 (小さな蟹の列に驚き、一匹踏み潰して) キヤツ!

詠 宵待蟹《よいまちがに》っていいいます。正式な名前は知らないけど。日没頃、集団で浜から上がってくるんです。

荘 シオマネキみたいなヤツだな。蟹漬《がんづけ》にやできるのか?

ホリゾントに、蟹を捕まえ、殻ごと砕き、

瓶に詰めて発酵させる製造工程が映し出される。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

## 宵待蟹岬毒草園（おためしサンプル）

---

2021年10月10日 初版発行

2021年11月8日 改訂（ver.1.001）

著 者 深川夏眠 © 2021年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529

---